



渋谷駅 埼京線ホーム移設に伴う 業務体制見直しの 団体交渉を行います！

2020年4月14日、JR東労組東京地本は「渋谷駅埼京線ホーム移設に伴う業務体制見直し」に関する申し入れをし、5月15日にJR東日本東京支社と団体交渉を行います！

東地申第050号
2020年4月14日

東日本旅客鉄道株式会社
常務執行役員
東京支社長 白石 敏男 殿

東日本旅客鉄道労働組合
東京地方本部派遣代表 柳 明則

「渋谷駅埼京線ホーム移設に伴う業務体制見直し」に関する申し入れ

渋谷駅は、埼京線ホーム移設によって利便性が向上することにより、お客さまの増加が予想されます。それに伴い渋谷駅で働く組合員の労働環境も変化することが余儀なくされます。今後、渋谷駅は東京オリンピック・パラリンピック、海外からのインバウンド、時代を先取りする駅として、その付加価値は増大することが見込まれます。

新形コロナウィルスの非常事態宣言がだされている中ではありますが、今施策の実施時期が6月1日となっていることから今施策の協議を進めなければなりません。

JR東労組東京地方本部は、渋谷駅で働く組合員が安全で働きやすい労働条件をつくりだすために下記のとおり申し入れますので、会社側の真摯な回答を要請します。

記

1. 乗客担当が3増となる根拠を明らかにすること。
2. 新たに配属となる乗客担当の配属時期と教育スケジュール、教育内容を明らかにすること。
3. 乗客担当の勤務作成の際には、隔たりがないように平等な勤務を作成すること。
4. 6月1日以降、定年退職等が順次発生することから、乗客担当の要員体制の推移と対応を明らかにすること。
5. 出改札担当が山手線外回りの前立に立つことから、安全第一に行動できるように教育すること。
6. 新設される埼京線ホームの半径470mの曲線と1000分の5%の勾配に対する安全対策とバリアフリー対策を講ずること。
7. 山手線のホーム、線路切換えの時期と現時点での暫定ホーム事務室から本設ホーム事務室への切り替え時期を明らかにすること。
8. 本設ホーム事務室を新設する際はトイレなどの水回りと、十分な休憩スペースを確保すること。また、その際には、事務室を利用する社員と意見交換を行い、より業務が遂行しやすいホーム事務室とすること。
9. 今後、埼京線の利便性が向上することによって、乗客の利用率が増加することが予測される。より安全で、満足のいくサービスを提供するためにも繁忙期やイベント等の応援体制を充実させること。

以上

安全で安心して働ける環境を創りだしてまいります！